

衆議院議員

上杉 謙太郎 様

野生きのこ・山菜類の非破壊検査体制の充実
及び野生鳥獣肉の出荷制限解除に向けた要望書



会津総合開発協議会

【構成市町村】

会津若松市	猪苗代町	三島町
喜多方市	北塩原村	金山町
下郷町	西会津町	昭和村
檜枝岐村	会津坂下町	会津美里町
只見町	湯川村	南会津町
磐梯町	柳津町	

表紙の「」は昭和47年公募により制定された会津総合開発協議会のシンボルマークです。

会津総合開発協議会は、誇りうる郷土会津の輝ける明日を拓くため、「会津はひとつ」の理念のもと、昭和38年に当時の全会津28市町村が集結し結成した団体です。これからも、郷土愛と地域開発へのあふれる情熱、そして各市町村の強固な結束力を糧として、郷土の発展を願い活動してまいります。

野生きのこ・山菜類の非破壊検査体制の充実及び 野生鳥獣肉の出荷制限の解除について

東京電力福島第一原子力発電所の事故から15年が経過した現在も、福島県では、野生きのこ・山菜類をはじめとする「山の恵み」について、広い範囲で出荷制限が続いています。

特に、会津地方の中山間地域において野生きのこは秋の旬を代表する食材であり、貴重な観光資源でもあり、出荷制限が継続している現状は、産業・なりわい再生の停滞につながっているところであります。

一部の野生きのこ（まつたけ、なめこ、ならたけ、むきたけ、くりたけ、まいたけ）については、非破壊検査による個別解除が可能とされていますが、実際の運用は十分に進んでいません。

さらには、野生鳥獣（ツキノワグマ・イノシシ・ニホンジカ等）についても出荷制限が続いています。

会津地域では、震災前にはほとんど見られなかったイノシシが現在では広範囲に定着し、農作物被害が深刻化しているほか、昨年度よりツキノワグマの出没・捕獲も急増しています。

捕獲した個体については、ジビエとして活用できないため、埋設や焼却による処分を余儀なくされており、処分費用の負担や埋設場所の確保など、多くの課題が生じています。

このため、捕獲個体を地域資源として活用するためにも、基準値の妥当性や合理性の見直し、検査体制の整備が不可欠であります。

つきましては、「山の恵み」の再生と地域資源の利活用を進めるためにも、下記の事項について要望いたします。

記

- 1 国・県・市町村が緊密に連携することによって、非破壊検査による個別解除の仕組みを積極的に整備・活用し、「山の恵み」の出荷を進めること。
- 2 野生鳥獣肉（ジビエ）について、基準値の妥当性・合理性を改めて検証するとともに、検査体制を整備し、出荷制限解除に向けた取り組みを進めること。

令和8年7月29日

会津総合開発協議会

会長 会津若松市長 室井 照平

会津総合開発協議会 会員名簿

(市町村長)

会津若松市長	室 井 照 平
喜多方市長	遠 藤 忠 一
下郷町長	星 學
檜枝岐村長	平 野 信 之
只見町長	渡 部 勇 夫
磐梯町長	佐 藤 淳 一
猪苗代町長	二 瓶 盛 一
北塩原村長	遠 藤 和 夫
西会津町長	薄 友 喜
会津坂下町長	古 川 庄 平
湯川村長	佐 野 盛 至
柳津町長	小 林 功
三島町長	矢 澤 源 成
金山町長	押 部 源二郎
昭和村長	渡 辺 文 弘
会津美里町長	杉 山 純 一
南会津町長	渡 部 正 義

(市町村議会議長)

会津若松市議会議長	清 川 雅 史
喜多方市議会議長	伊 藤 弘 明
下郷町議会議長	湯 田 健 二
檜枝岐村議会議長	星 浩 彦
只見町議会議長	佐 藤 孝 義
磐梯町議会議長	鈴 木 久 一
猪苗代町議会議長	長 澤 操
北塩原村議会議長	五十嵐 善 清
西会津町議会議長	伊 藤 一 男
会津坂下町議会議長	赤 城 大 地
湯川村議会議長	高 倉 好 博
柳津町議会議長	齋 藤 正 志
三島町議会議長	二 瓶 俊 浩
金山町議会議長	五ノ井 義 一
昭和村議会議長	栗 城 徳 雄
会津美里町議会議長	大 竹 惣
南会津町議会議長	山 内 政